

第3回 仙台市総合計画審議会議事録

日 時	平成22年3月25日(木) 10:00~12:00
会 場	仙台市役所2階 第一委員会室
出席委員	足立千佳子委員、阿部初子委員、石川建治委員、内田幸雄委員、 江成敬次郎委員、大滝精一委員、大村虔一委員、岡本あき子委員、 小野田泰明委員、菊地昭一委員、小松洋吉委員、佐竹久美子委員、 菅井邦明委員、鈴木由美委員、西大立目祥子委員、針生英一委員、 樋口稔夫委員、増田聡委員、間庭洋委員、宮原育子委員、柳生聡子委員、 柳井雅也委員〔22名〕
欠席委員	阿部一彦委員、大草芳江委員、鈴木勇治委員、高野秀策委員、 永井幸夫委員、西澤啓文委員、庭野賀津子委員、水野紀子委員 〔8名〕
事務局	瀬戸企画市民局長、佐藤企画市民局理事、伊藤企画市民局次長、 佐々木総合政策部長、折田総合計画課長、柳津総合計画課主幹
議 事	1 開会 2 議事 (1) 100万市民の政策提言について (2) 新基本構想の具体的検討に向けた方針について (3) その他 3 閉会
配付資料	1 仙台市総合計画審議会委員名簿 2 「100万市民の政策提言」の概要 3 起草委員会の審議経過について 4 新基本構想の具体的検討に向けた方針(案) 5 新基本構想の都市像(たたき台) 6 審議会日程(案)

1 開会

大村虔一会長

まだお見えでない方がいらっしゃいますけれども、定刻となりましたので、ただいまから第3回仙台市総合計画審議会を開催いたします。

最初に、本日の議事録署名委員を指名したいと思います。

あいうえお順で、今回は阿部初子委員にお願いすることになります。よろしゅうございますか。

阿部初子委員

はい。

大村虔一会長

続いて、議事に入る前に、定足数などの確認を行います。
事務局から報告をお願いいたします。

折田総合計画課長

最初に定足数でございますけれども、本日22名の委員にご出席をいただいておりますので、定足数を満たしていることをご報告いたします。

続きまして、資料の確認をさせていただきます。

お手元に座席表、起草委員名簿、新総合計画策定作業マップ、それから本日の次第、資料一覧、それから資料1から6まで配付させていただいております。

それから、前回まで我々事務局でお預かりしておりました資料とこれまでの議事録をファイルにつづったものを置かせていただいております。また、起草委員会の資料と議事録につきましても、あわせてファイルにつづったものを置かせていただいております。

それから、お持ち帰り用として資料を入れた封筒を置かせていただいております。

資料等に不足はございませんでしょうか。

続きまして、委員の変更についてご報告をさせていただきます。

審議会委員名簿を資料1としてお示ししておりますけれども、仙台市の医師会会長様がお替りになったことに伴いまして、山田明之委員が退任され、本日ご欠席でございますが、永井幸夫仙台市医師会会長に委員に就任をいただきましたので、ご報告をさせていただきます。

事務局からは以上でございます。

大村虔一会長

はい、ありがとうございます。

2 議事

(1) 100万市民の政策提言について

大村虔一会長

それでは、早速議事に入りたいと思います。

本日の議事は、次第にありますとおり3つでございます。

まず第1点目として、第2回審議会で、市政だよりを活用して市民の皆さんの意見を聞きましょうということにしておりましたけれども、その結果をまとめたものが提出されておりますので、事務局からその説明を受けたいと思います。

よろしくお願いいたします。

柳津総合計画課主幹

では、資料2について説明させていただきます。

資料2は、100万市民の政策提言についての資料でございます。

100万市民の政策提言につきましては、12月20日に行われました第2回審議会におきま

して間庭委員からご提案がありまして実施したものでございます。

提言の募集につきましては、先ほど会長からもお話がありましたが、市政だよりの1月号で行いまして、実施に当たりましては、記事の内容、こちらのほうは審議会の資料をベースにいたし、柳生委員と大草委員のご協力を得まして、大村会長のご指導を賜りながら作成したところでございます。

2番としまして、このところに実施概要を書いてございますけれども、提言は昨年の末から1月下旬まで、市政だよりのとじ込みはがきと本市のホームページで募集をいたしました。

なお、対象としたテーマといたしましては2の(3)に記載したとおりでございます。その結果、3の(1)のとおり2,271名の方から提言をいただいたところでございます。

また、属性といたしましては、3の(2)にまとめてございますけれども、特徴といたしましては60代、70代の方からの回答が非常に多く、約半数に上っているところでございます。

ページをおめくりください。

こちらは提言数についての統計をまとめてございます。

複数提言可といたしましたので、提言数といたしましては3の(3)のとおり3,632件に上っております。テーマごとの意見数と主なキーワードについては(4)のとおりにまとめてございます。

こちらのほうで統計を見てみますと、件数といたしましては 1 番少子高齢化への対応と、 2 番の安心な暮らしの実現がともに700件を超えておりまして、暮らしに密着したテーマに関する意見が多くなっているというところが見てとれるかと思えます。

それから、4番ではテーマごとの傾向ということで、それぞれのテーマごとに簡単にまとめてございますけれども、簡単に説明いたしますと、 1 番の少子高齢化への対応では、保育施設や高齢者介護サービスの拡充や、子育て、高齢者の負担軽減などの意見が多くなっております。 2 番の安心な暮らしの実現では、少子高齢化に関連した将来の不安などについて、 3 番の市民生活の基盤の整備では、東西線、道路など交通網に関するものや、杜の都の特徴を生かした整備などへの期待が寄せられております。 4 番の市民主体のまちづくりでは、地域や都市計画に関するもののほか、行政のあり方についての意見が寄せられております。また、 5 番の発展のために重視することでは、本市の特徴を生かして資源を掘り起こしていくPRが必要だということが寄せられておりました。 6 番の成長を支える原動力では、人材育成や観光など産業振興について寄せられてございます。 7 番の東北のためにできることでは、国や県、他市町村との連携強化という意見が目立っております。なお、 8 番としましてその他という項目を設けましたが、ここはいろいろなものが出てきたのですけれども、財政再建や自治体内部の問題に対する意見などが多く寄せられたという結果になってございます。

5番としまして、今後の取扱いを書いてございますけれども、今後の取扱いといたしましては、こうした市民の皆様からいただいた意見をこちらで参考としながら、今後の基本構想の議論を進めていこうというところのほか、具体的な内容については、これから始まる基本計画や実施計画の策定の過程の中でも活用していきたいと考えてございま

す。

なお、内容につきましては、仙台市役所の組織内でも情報共有を図りまして、個別の計画の策定や今後の施策展開の中でも活用していく予定でございます。

なお、この資料の3ページ以降は、この提言に関します統計を詳しく載せてございます。

それから、6ページ目、7ページ目でございますけれども、こちらは市政だより1月号の記事、それから、そこにとじ込みを行いましたハガキでございます。

なお、本日は、資料2の参考資料といたしまして、主な提言を簡単にまとめたものを用意してございましたので、こちらは後ほどご高覧いただければと思います。

資料の説明は以上でございます。

大村虔一会長

はい、ありがとうございます。

ただいまの報告につきまして、何かご質問等ございましたらお願いしたいと思います。いかがでございましょうか。特にございませんか。

いつもこういうことをやると、年齢が上の人が多くなるのは普通なんですけど、市政だよりは20代ぐらい、大学の学生さんとかそういう人のところには行っているんでしょうか。

柳津総合計画課主幹

全戸配布しています。

大村虔一会長

全戸配布、なるほど。そうすると大体行っているんですかね。

小松洋吉委員

ポストには入っていると思います。

大村虔一会長

ポストに入っている。それでは、一応見ているけれども、関心がないというふうにしかならないかな。ほかにございませんか。

どうぞ。

石川建治委員

若い人たちの関心がないということよりも、ある意味では若い人たちへのアプローチの仕方に工夫が必要なのかなという気はします。さまざまな政策について若者の意見を反映する、あるいは仙台市のさまざまな事業、施策について若者がはまっていくといいですか、そういったところはなかなか、仙台市に限らずだと思うんですけども弱い気がするんです。そういった面では、改めて総合計画を策定するということに若者たちの

意見反映をしたいということであれば、何らかの工夫が必要だろうと。例えば、学都仙台と言われるのであれば、直接大学やあるいは専門学校に持って行って、是非若い人たちの意見を聞きたいとか、ある意味では会社に行って、20代の会社員の皆さんに協力をいただくとか、そういう工夫もまた必要なんだろうというのは、これを見て感じております。

大村虔一会長

ありがとうございます。
ほかにいかがでしょうか。
どうぞ。

増田聡委員

これだけではなくて、もうちょっと具体的なパブリックコメントについてもそうなんですけれども、どう対応したかというのがなかなか表に見えてこない。

実は、いろいろなレベルの提言があって、具体的にこういうことをやってほしいというところから、こう考えてほしいという思想に近いところまで多々あるんですけれども、総合計画がまとまっていく過程で積極的にピックアップしたものについては、この提言からこういう手順を経てこういう施策になりましたというのを、是非幾つかの場面で組み込んでいければと思います。

それから、敬老乗車証のようにまだ中で議論しているものもありますので、いろいろな意見があって、ひとつにまとまらないものについては継続審議、例えば議会での継続とか何かをやっていますという、そういうレスポンスを返していくということを是非、総合計画が終わった後にやっていただきたいと思います。

大村虔一会長

はい、ありがとうございます。
ほかにいかがでしょうか。
どうぞ。

西大立目祥子委員

今のご意見とほとんど同じことなんですけれども、私もまちづくり活動をする者としてこういうパブリックコメントに対して意見を出したことは何度かあるんですが、一体それはどのように受け入れられたのか、受け入れられなかったのか、何もレスポンスがないですね。そういうことが積み重なると、市民協働というのは本当にかけ声ばかりだという印象もあるので、形式的なものにしない仕組みをこの機会にうまくつくっていけないものかと思います。

大村虔一会長

ありがとうございます。

そうした方向をどうしていったらいいのかを、審議の中で少し考えていきたいと思いをします。

ほかにはいかがでしょうか。よろしゅうございますか。

それでは、ほかになれば次の議事に移りたいと思います。

(2) 新基本構想の具体的検討に向けた方針について

大村虔一会長

2点目でございます。

新基本構想の具体的検討に向けた方針についてです。

起草委員の皆様にはご議論をいただきまして、新しい基本構想を具体的に検討していただくための方針の案と、都市像のたたき台が提出されております。これについて審議をお願いしたいと思います。

まず、今回提出していただいている方針案と都市像のたたき台につきまして、起草委員会の大滝委員長からご報告をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

大滝精一委員

それでは、お手元の3、4、5の3つの資料に基づきまして、これまで起草委員会の中で新基本構想の具体的な検討に向けて方針を議論してきたわけですが、そのことについて少し私から時間をいただいてご説明をさせていただきたいと思っております。

最初に、資料3にこれまでの起草委員会の審議経過について書かれておりますので、それに基づいて、どんな経過で議論を進めてきたのかということについて報告をしたいと思います。

資料3にもありますように、第1回起草委員会では、第2回審議会でのご意見なども踏まえまして、新しい基本構想策定に向けてフリーディスカッションを行いました。その中で、現行基本構想を改めて検証するということになりまして、市側で現行基本構想の検証作業を行い、その総括を行った上で新しい基本構想の審議を行うということにいたしました。

続いて、第2回では、事務局から現行基本構想の検証作業の報告、お手元に資料4の添付資料1ですとか、あるいは資料3～5の参考資料2が配付されているかと思いますけれども、そういった形で検証作業の報告を事務局から受けて、それを踏まえて現行基本構想に関する総括的な議論をした上で、新しい基本構想の軸となる考え方について議論をいたしました。

この第2回起草委員会では、新しい基本構想の構成につきましては、後ほど説明いたしますけれども、現行の基本構想の4部構成、策定の趣旨、それから都市像、それから施策の基本方向、それから基本構想の推進という、その4部構成をベースに検討を進めることにいたしました。また、都市像に関しては、現行の都市像のベースにある四つ、「健康都市の風土」、「杜の都の風土」、「中枢都市の機能」、「学都の知的資源」というこの四つについては現在でも重要性を持っているということ、共通認識として確認をいたしました。それから、それに加えて、市民の創造的な取組についての記述のあ

り方とか、組織横断的な視点の取り入れ方などについても議論を行いました。

それから、さらに従前の基本構想等の都市像の分類や、それからこれまでの審議で出された重要なキーワードを整理するのがよいのではないかという議論になりまして、キーワードを整理する作業も行ってまいりました。

第3回では、委員会前に私と大村会長とで意見交換を行いまして、そこで幾つかの論点をご示唆いただき、それも受けて会長にもオブザーバーとしてお入りいただきまして、第2回までの議論を踏まえて、私から試案として従前の基本構想等の都市像の分類やこれまでの審議で出された重要なキーワードを整理した「都市像等の変遷と新しい基本構想におけるキーワード（案）」と、「都市像のイメージ図」というものを提出して意見交換を行ってまいりました。

先ほども説明しましたお手元にあります資料3～5の参考資料1の中には、そのキーワードとか都市像のイメージ図といったものが含まれております。それからまた、都市像を検討するに当たっての幾つかの論点を提示して議論を行いました。

それから、裏面をご覧ください。

第4回目では、これまでに起草委員からいただきましたご意見、それから議論をもとにして、私から「新基本構想策定方針（案）」と、「新基本構想の都市像（たたき台）」の試案、これからご説明いたします資料4、資料5の委員長試案を提出いたしまして、それに基づいて審議を行いました。

本日は、その審議結果を反映したものをそれぞれ資料4、資料5として提出させていただいております。

当初の予定よりも少し多く起草委員会として議論を重ねてきたわけですが、第4回まで含めた、これまでの4回の起草委員会の審議の経過については、以上ご説明したとおりで資料3に記されているものです。

続いて、本日の中心的なテーマになりますけれども、まず資料4に基づきまして、「新基本構想の具体的検討に向けた方針（案）」について説明をいたしたいと思います。

審議経過と少し重複する部分もありますけれども、この資料4に沿って説明をしてみたいと思います。それから、あわせて現行の基本構想についても適宜ご参照いただければと思います。

これまでの起草委員会での議論は、内容的にはこれから具体的な検討を行う大枠の部分ですので、今回報告するに当たって、「新基本構想の具体的検討に向けた方針（案）」というタイトルといたしました。

順次、これから説明をしていきたいと思いますけれども、まず新基本構想の構成につきましては現行の基本構想の構成と同様な形で、策定の趣旨、都市像、策定の基本方向、基本構想の推進という4部構成で考えていきたいと思っています。

それから2番目に、起草に当たっての基本的視点として、まず策定の趣旨ですが、ここでは、先ほどご説明いたしましたように、検証作業等を通じて得られた人口減少、それからその構成の急激な変化に伴う市民生活とか都市形成への影響の深刻化など、資料記載の数項目のような時代認識を踏まえた内容にしたいと考えています。

資料4のところに、ポチのような形で幾つか、時代認識を踏まえた検証作業を通して

得られた策定の趣旨というものを新たに書き加えていくという対応にしたいと思っています。

それから、それに加えて、仙台の個性の大切さ、それから「行動する市民力」というものを原動力として都市像を実現していくことの重要性を明確に打ち出したいと考えています。特にこの部分、仙台の個性の大切さですとか、「行動する市民力」を原動力として都市像を実現していくという部分につきましては、現行の基本構想との大きな違いとして強調したいと思っています。

「行動する市民力」は、ここでも記載しているとおり、市民・NPO・企業、それから行政等のそれぞれがまちづくりの主体となって、対等な立場で自律と責任を持って公益活動を担いながら、新たな公共的な課題に取り組み、新しい価値を創造していくことを意味しています。この「行動する市民力」が新しい基本構想における大きなキーワードとなりますので、私あるいは起草委員会の中での議論も交えて少し説明を加えたいと思います。

市民・NPO・企業・行政等という形でうたっています。この部分につきましては、主体をどこまで列挙するのかということがあるかと思いますが、具体的には、町内会等の地縁団体とかPTA、大学、商店街などもまちづくりの主体に含まれていますし、NPOという表現には、いわゆるNPO法人だけではなくて、ボランティア団体やある種のサークル団体など民間ベースで非営利活動、つまり公益活動を行う団体すべてを指していると理解しております。それから、公益活動の部分については、公共利益を目的とする社会的、公益的な活動を広く含めています。したがって、市役所など行政の仕事はもちろんですが、企業による社会貢献活動などもこの公益活動の中に含まれます。

それから、新たな公共的な課題の部分については、行政の仕事として現れてくる課題にとどまらず、社会経済状況の変化によって地域で顕在化してくる課題も想定しています。それらの課題に対して、まちづくりの主体が連携・協働してその解決に取り組むという考え方です。また、これまでにある課題も新たにとらえ直すという意味で「新たな」という表現を入れていますけれども、当然ですが既存の課題もそこには含まれています。そのような課題の解決に取り組みながら仙台の個性を生かして新しい価値を創造していく、このような一連の行動のダイナミズムをここでは「行動する市民力」というキーワードで表しています。

先ほどもお話ししたように、「行動する市民力」は以上のような考え方ですが、公益活動とか公共的な課題は広い意味で使用しており、他の表現に置き換えることが適切ではないかというお考えもあろうかと思います。このあたりにつきましては、審議会の中でもご議論いただければと考えております。

続いて、都市像についてですが、裏面、2の都市像に当たる部分です。これにつきましては、現行の4分類が仙台の歴史的蓄積としての「健康都市の風土」、「杜の都の風土」、「中枢都市の機能」、「学都の知的資源」から導き出されたものであって、これは現在においても仙台の特徴であり、21世紀中葉を想定した将来像においてもこの4分類を基本とする概念としたいと考えています。

現行基本構想では、都市像を定める基調として「市民主体の創造的な都市づくり」ということを示していますけれども、新基本構想では、先ほども申しましたようにこの部分をより重視すべきであって、特に協働とか連携、それから東北全体の発展のための仙台の役割などを盛り込みつつ、「行動する市民力」をどうはぐくむかということを検討する必要があります。それからまた、市民力というものが動的な要素を含んで展開していくことについても取り入れたいと考えています。これまでの都市像の変遷あるいは起草委員会の議論から、幾つかのキーワードが出されていますけれども、それらも踏まえながら、できる限り市民の目線で実感の持てる表現としたいと考えています。

今、私が申し上げてきたことについては、起草委員会の中でいろいろな議論を進めてきているわけですが、その議論を深めていく過程で利用した図などを参考資料として添付してありますので、ご参考までに。図のひとつひとつについて詳しいことを私のほうからは説明いたしませんけれども、少しご覧になっていただければと思います。

次いで、施策の基本方向につきましては、別添資料にあります現行基本構想の検証資料、資料4の別添資料1、かなり大部なものですけれども、それを踏まえた上で必要な見直しを行いたいと思います。本日は、この検証資料自体は大変膨大なものですので、個別の説明については控えたいと思っておりますけれども、特にこの検証資料から地域社会の形成、それから循環型都市づくり、それから都市構造の形成につきましては、時代状況とか実態に即した施策につなげるために、体系の組みかえも含めて見直しを行いたいと考えています。

続いて、4の基本構想の推進についてですが、この部分では、「行動する市民力」を育て、強めていくための都市経営のあり方、それから協働・連携のあり方、行政の政策形成過程における市民参加・参画の手法などの議論を深めたいと思っています。ここで議論を深めるという表現をしておりますけれども、これにつきましては、基本構想では基本的な考え方を示し、より具体的内容につきましては、基本計画とか実施計画で記載していくことになるかと考えています。

最後の、今後のスケジュールについてですが、これにつきましては、この方針案について本日の審議会での審議・了承を経て、起草委員会で具体的な記述を進めて、5月を目途に中間案の原案を審議会に諮りたいと考えております。

以上が、資料4にあります「新基本構想の具体的検討に向けた方針（案）」についての内容の説明です。

続きまして、資料5、「新基本構想の都市像（たたき台）」について説明申し上げたいと思います。

この都市像につきましては、今回の審議会に上げましたのは、この都市像の部分というのが新基本構想で最も核となる大切な部分であるということをお聞きいただき、委員の皆様方のご意見を踏まえつつ、この後原案を固めていきたいと考えております。そういう趣旨で、この資料5の中で新基本構想の都市像について、たたき台という形で説明をさせていただきたいと思っています。

たたき台という表現がありますように、あくまでもここに提示されているのは都市像の考え方、方向性を議論していただくためのものでありまして、使われている表現とか

単語とか、それからキーワードにつきましてはまだ十分に議論が尽くされているわけではありませので、表現的には粗い段階の資料として提出してあります。ある程度、方向性とか考え方の大枠をここでは指し示していると思ういただければと思います。中身についてはさらにこれから検討を加えていきたいと思いますが、基本的なスタンスについて今日はご説明したいと思っております。

全体として、まずこの都市像につきまして、現行との大きな違いは、市民の側から表現していくことを心がけていきたいと思っています。つまり、主語が都市とかまちではなくて市民になっている。市民が何かをするとか、市民が何かをできるという、そういう表現の仕方でご記述しているということが大きな特徴だと考えております。

それから、四つの都市像として使われている表現とか単語につきましては、先ほどもご説明いたしましたように、今後さらによい表現に向けた工夫が必要かと思っておりますので、審議の過程の中で是非委員の皆様方から積極的にいろいろな形でご提言いただければと思っています。全体としてはなるべく固い言葉を避けて、わかりやすい、柔らかな表現とか言葉を使うように心がけております。

それから、冒頭の、上段の記述がありますけれども、この記述は現行の基本構想中の都市像の序文に当たるものです。冒頭のかぎ括弧でくくってあります「未来に恵みと希望を伝える仙台」というのは、これそのものの意味は、21世紀中葉に目指す都市像そのものというよりも、むしろ将来に向かって持続的に取り組む市民活動、都市活動の姿をこの言葉で表現していると思ういただければと思います。21世紀中葉の具体的な都市像については、以下四つの部分でご説明いたしますけれども、その四つの部分というのが具体的な21世紀中葉の都市像として提示されているものです。

今もご説明しましたように、「未来に恵みと希望を伝える仙台」という形でそこに幾つかの重要なポイントを記載しておりますけれども、ここでは仙台独自の資源を再発見・再構築して、息吹を吹き込み新しい価値を創造する、そのために「行動する市民力」によって仙台と市民生活の豊かさを実現していく。それから、その豊かさの実現というのが「健やかな暮らし」、「自然との共生」、「世界に生きる東北の力」、「未来を築く学び」というこの四つの大きな柱、これらの仙台の個性に磨きをかけていくことによって達成されていくものであって、それらの恵みと希望をはぐくみながら未来へ継承していく。このような姿をここでは一応コンパクトに表現しているつもりです。趣旨はそういうことで、冒頭のところに「未来に恵みと希望を伝える仙台」という形で表現しております。

先ほど説明いたしましたように、以下、ローマ数字の から で記載されている部分が21世紀中葉にこうありたいと考える都市像です。その下に列挙されているものが、それぞれの都市像の具体的なイメージを記してあります。 から の都市像につきましては、先ほどもお話しいたしましたように「健やかな暮らし」、「自然との共生」、「世界に生きる東北の力」、「未来を築く学び」というものに対応する形で記述がなされています。

説明は以上ですが、これは4回の委員会を経て起草委員会として取りまとめたたたき台でありまして、今後、審議会としてのご議論を取り入れて起草委員会でもより

議論を深めて、中間案の原案に向けて、都市像の部分についてもこれから作業を進めてまいりたいと思っておりますので、是非この都市像のたたき台についても忌憚のないご意見をいただければと考えております。

ちょっと長くなりましたけれども、説明は以上です。

大村虔一会長

どうもありがとうございます。

起草委員の皆様、どうもご苦労さまでございました。

4回も開いていただいてまとめていただいたわけですが、今の資料3、資料4、資料5、審議経過と、それから具体的検討に向けた方針と、それから都市像のたたき台と、この3つをご説明いただいたわけでございます。

これらに関しまして、起草委員の方からでも補足なりご意見なり結構でございますので、皆様からご質問、ご意見を賜りたいと思います。

どなたからでも、よろしくお願いいたします。いかがでしょうか。

取り扱う雰囲気としては、たたき台については新しいアイディアをいろいろ自由にご発言いただくという感じに近いと思いますし、資料4の基本構想策定方針につきましては、4回の中で議論をされてきたことでありますので、それぞれの委員からの個人的な見解をいただければと思います。

いかがでしょうか。

はい、どうぞ。

岡本あき子委員

起草委員の皆さん、本当にお疲れさまです。いろいろな情報を集めてくださってありがたいと思っています。

単純な話なんですけれども、全部ではないんですが、幾つかの他都市の基本構想も拝見させていただきました。残念ながら似たり寄ったりというのが正直な、ほかも比べてなんです。どこでもやっぱり地域の中で暮らすというのは必要だということで、あと安心安全だったり環境だったり、経済の活性化、インフラ、文化というのが大体どこでも網羅されているんです。

今回、大滝委員長からも再三発言があった「行動する市民力」とかそういうキーワードを逆に仙台らしさとして全面に出してもいいんじゃないのかと、お話を伺いながら思いました。

都市像の前に「未来に恵みと希望を伝える仙台」という言葉があるんですけど、例えばシンプルに「行動する市民力」だったり「市民の底力」だったり、あるいは全体を通じて仙台市が今後、いろいろな個別の基本計画も、今、同時にスタートしているこの時期なので、未来に対する責任を考えていくことをスタートすることとか、「市民の底力」とか「行動する市民力」、あるいは「未来への責任」とか「子供たちの未来のために」とか、そういう共通のキーワードを一番トップに載せて、仙台市はこういう方向に向かっていくんですよ、市民みんなが参画するんですよというのを最初に出しては

どうかと思っていました。その中の具体的なまちのイメージとして、安心があったり環境があったり、文化があったり教育があったりという、その都市像につながっていくのかと思ったので、基本構想の策定の趣旨があってすぐまちのイメージというよりも、仙台らしさとして共通のキーワードの部分をあえてトップに持ってくるという形はいかがかと思って、お話を伺っていたところです。

私からは今のところは以上です。

大村虔一会長

はい、ありがとうございました。

ほかにいかがでございますか。

どうぞ。

菅井邦明委員

委員長の報告と今のお話を伺っていて、こんなことを考えましたということ。

今、行動する市民ということを出すという、それは私も賛成なんです、まず自分のことを考えました。自分の家から出て行動するということは、人間が移動する、100万人が移動する、移動して何か皆さん活動していくわけですが、移動を、大体構想だと楽にしようということで、東西線をつくって南北線をつくってさらにどうこうしたり、みんなマイカー買って運転したりする。そうするとすごく便利になるというのは当たり前前の話です。それはそれでいろいろな形、バリアフリーにして何とかと、いろいろなことも出てくる。

それはいいんだけど、一方において、今、大滝先生のキーワードの中で「杜の都」とか「自然との共生」とか、今、時代がこういうふうになってきている。そうすると、どんどん移動を楽にする、最新鋭のものをどんどん入れることが交通渋滞を起こしたり、排気ガスを増やしたりする。そうすると、もう一方において「自然との共生」とそれをどう調和させるのかということになると、では交通規制をするのか、ほかにも何かをするのかを考えるのか考えないのか。そうすると、そこで我々、市民として行動するんだけど、考え方を市民は変えなければいけないというところがあるかもしれませんね。

そのところを入れないと、今、岡本委員が言うように、どこの市町村でも県でもやっているのはみんな同じように見えてしまう。考え方を考えるのか考えないのかによってはその行動する市民の都市像というのは随分。私は個人的には「杜の都仙台」というのに大体反対する人はいないんじゃないかと思いますが。そういう基本のものをどうやって実現するか。行動する市民について僕は今移動ということをキーワードに出しましたけれども。ですから、そんなところをまた議論していただければありがたいです。

以上です。

大村虔一会長

はい、どうもありがとうございました。

ほかにいかがでしょうか。

どうぞ。

柳生聡子委員

起草委員会の皆さん、本当にありがとうございました。さまざまな現行の基本構想との比較といいますか、見直しも含めて大変な作業だったと思います。

この審議会の最初のときに奥山市長が、仙台はこれだ、仙台ならではの光が見えるものとおっしゃったときに、果たしてどういう新しい基本構想になるのかと。現行の踏襲のままではなく何か新しいものを、新しいキーワードなり考え方を入れていかなきゃいけないと個人的に肝に銘じたんですけども、今の大滝委員長の話を伺って、ひとつ「行動する市民力」というものが大きなキーワードで、これが柱になっていくということをお聞きして、まさにここが光になっていくのかと伺っておりました。

先ほど、今のお話でしたけれども、考え方を変えていく、どっちかという東北の皆さんは、行動するよりもむしろちょっと待って傍観しているという気質があるのかと思ったときに、これから今度はもう自分たちがアクションを起こしていく時代なんだという、考え方を変えるとか価値観を変えていくという部分も明記するほうがいいのではないかと思います。

あと、非常に細かいんですけども、「行動する市民力」というそのキーワード自体なんですが、行動するのは市民であって、市民力ではないと思ったんです。ですので、シンプルに「行動する市民の力」とか、あるいは市民力という言葉にこだわるのであれば「主体的な市民力」とか、あるいは「市民の行動力」でもいいですし、何か言葉のあやまいなものかもしれないんですけども、私はその「行動する市民力」の部分にどうも引っかかってしまいまして、耳ざわりはいいんですけども、何度も出てくるのであればやはりきちんとした日本語でといいますか、みんながすんなり受け入れられるような言葉に研ぎ澄ましていく必要もあるのではないのかと感じました。

以上です。

大村虔一会長

はい、ありがとうございました。

ほかにいかがですか。

どうぞ。

樋口稔夫委員

私から見ますと、最近、市長の施政方針でも市民協働という、今までもやってはおりますけれども、市長が特に強調しているというのがございますね。それで、我々ちょうどそういう市民力の最先端で実際やっている立場として、行動したいと思ってもできない仕組みがあったり、その辺を少しきちんとやっていかないと市民が力を出せないということが多いいですよ、今でも。今、やっているところは相当やっているんですよ。それをもう少し評価をしたり、やはりそういうモデルとして皆さんでアピールしたり、そういう機会を多くつくっていかないと、市民力とか、言葉では出るけどなかなか実態

に結びつかないと思うんです。

我々としては、例えば災害時の要援護者支援とかを、今、やっていますけれども、こういうものは縦割りの行政の中で出てきている案なんですよ。そういうものをそのまま受け入れてくれということでやっていますんで、もう少し、縦割りではなく、行政から見たら一本になった状態で我々に要請してくるという格好でないと、なかなか消化できないという感じはあるんです。やはりみんな、年をとった方、今日もいろいろな市民のアンケートでも相当出てきていますけれども、やる気になっているのは結構いるんですよ。ただ、それがうまく力を出せない仕組みになっているというところをもう少し、具体的にこういう中に盛り込んでいく必要があるのかという感じがいたします。

大村虔一会長

はい、ありがとうございました。
どうぞ。

足立千佳子委員

本当にたたき台というか、ああ、これでまた仙台いろいろ楽しいことができるんだと、すごくわくわくしてきました。ありがとうございました。

それで、私からは、ちょっと私が不勉強なので少し教えていただきたいと思っているところで、やっぱり市民という言葉にちょっと違和感があると。今、そして最近のトレンドなんだろうけど、市民、市民と言っていると、今度は企業市民とか行政市民とか変な言葉がいっぱい出てきているような気がするので、多分これから先、そういう企業市民とか行政市民という言葉がほかのところで出てくるような流れになってきているのかと思ったときに、ここでいう市民というのはだれというのがわかるように、ここに暮らす人たちだよとか、何かもう少し耳ざわりがいいというか、ああ、自分だなと思うような言葉になるといいかと。

その行動する市民とかになってしまうと、おれ市民じゃないからみたいなこともありますので、もう少しそのところを検討していただきたいし、私もちょっとそういうところは勉強したいと思いました。

以上です。

大村虔一会長

ありがとうございます。
ほかにいかがでございますか。
どうぞ。

石川建治委員

ひとつは、市民という話をしたときに、今までは市民と行政の協働ということが強調されてきたんですよ。それが今度奥山市長になってから、市民、企業、行政の協働というふうになってきたんです。

先ほど大滝先生からも報告がありましたけれども、市民という概念がNPOだったり既存の市民団体だったりさまざまあって、非常に広義で市民というのが表現されてくる。そうすると、今、足立委員がおっしゃったように、自分が、市民一人一人が、私がでは市のために何がやれるのか、自分の地域のために何がやれるのか、社会のために何がやれるのかと主体的に考えられるような施策というか考え方というのは、どうしても必要になってくると思います。

それから、2点目なのですが、基本構想を考える際に、どうしても人口フレームをどう考えていくのかということと、前回も申し上げましたけれども、財源をどう考えるのかというのは非常に無視のできない考えであるんだろうと思うんです。数十年後には間違いなく仙台市の人口が減って、今の100万人が80万人になる。いわば5分の1が減ってしまうということですよね。そうすると、さまざまな都市機能、それから財政的にも施策的にもその規模に将来合わせていくという方向もまた、その構想の中に検討課題として含まれないと、さまざまな弊害が起きてくるような気がします。

これまでもいろいろな計画をしてきました。例えば、最近ではアクセス鉄道の問題で、建設時にはたしかかなりの人数、1日1万人以上使うと言ったのが残念ながら6,000人規模に落ちてしまっているということ、それから地下鉄南北線も、当初20数万人利用ということが、残念ながらまだ10数万人にとどまっているということもあるので、そういう面では、非常にこの人口フレームを重視していくべきだろうと思います。これは住宅政策にも直接かわるものですから、その辺も、具体的な自分たちの生活とか仙台市の現状をイメージしながら、将来どうしていくのかというのは是非この構想の中でも議論していきたいと思っています。

大村虔一会長

ありがとうございます。

どうぞ。

菊地昭一委員

「新基本構想の具体的検討に向けた方針（案）」の中に、これは恐らく、先ほど岡本委員がほかの都市と余り変わらないとおっしゃいましたが、基本的には抱えている課題あるいはキーワードが人口減少であり少子高齢化であり経済でありというのは、もう全国どこでも同じような状況だと思うので、ひとつはこの「行動する市民力」というのを前面に出すと。これは基本的にいいんですけども、具体的な中身において仙台市が特徴を出さないと、キーワードだけ、例えば「行動する市民力」だの「市民の力」でもいいんですけど、ただ抱えている課題は全国、恐らく大都市共通の課題がほとんどだと思うんです。

それから、私、個人的には人口減少と余り使いたくないんです。何か都市がどんどんインフラ整備されて人口が減少すれば、一人一人に対する負担は大きくなるのは当然、これは全国的なところなんで、仙台市が魅力のある都市像を掲げることによって、ある意味では人口減少に歯どめのかかることも、当然将来は考えられると私は思っているも

のですから、むしろ具体的な中身で、例えば道路の整備から歩道の整備にシフトしていくとか、そういう人口減少時代に対応する具体的な中身できっちり見せていったほうがいいのかと。ですから余り後退するようなイメージのキーワードは使わないほうがいいのかという思いはします。

大村虔一会長

ありがとうございました。

どうぞ。

柳井雅也委員

東北学院の柳井です。今度の四つの柱というのは、私は起草委員に入っていましたので、その考え方をちょっと説明させていただきたいんですが、基本的には、現基本構想の居抜きみたいなものなんです。だから、その柱は変わらなかったんです。ただ、我々がその議論をするときどういったところに重点を置いたかという、ひとつは未来志向でいまいしょうということで、確かに、今、菊地委員も言われたように、人口問題とかなかなか厄介な問題があるんですけども、ただ視点を換えれば、人口が減ることとは、今まで物すごく混雑していたような公共交通機関であるとか、いろいろな施設がありますよね。これが言ってみれば一人当たりの時間とか満足度を高めるという使い方も可能になってくるんですよ。だから、むしろそういったところをうまく引き上げていくという発想で議論していくとか、いろいろ議論を重ねていったわけなんです。

それでずっとやっていく中で見えてきたことが二つほどありまして、ひとつはいろいろな垣根外しという表現を僕はとっていたんですけども、行政の中での垣根が、お互い隣が見えていない状況があったんじゃないかという議論が出てきました。例えば、今日の大滝委員からの説明にもありました東西線の問題なんていうのは、東北の全体の経済発展以外にも、例えば、菅井先生がさっきおっしゃられていたようにCO₂削減とかいわゆるコンパクトシティとか、いろいろなものに全部関連していくんです。実はこれからの新しいその構想というのは、ひとつの施策がいろいろな分野と連携をとっていく仕組みを考えて施策を打っていかなくちゃいけないだろうというとき、例えば仙台市の行政の組織というのは、そういうふうにちゃんと対応しているのかとかいろいろな問題があったんです。

もうひとつは、予算の問題も。市民力というところすごく格好いいんですけども、実際我々、別の委員会に出てお話をしていると、例えば中心市街地でちゃんと地域振興のために使えるお金というのは年間200万円あるかどうかなんです。だから、もうかなり予算的にも逼迫している状況は現実的にあるわけです。どうしてもやっぱり市民と行政が連携してやっていかないと、何も動かない時代がもうやってきているということなんです。そういうやっぱり逼迫した状況が、実はこの市民力という表現の中に込められているというのもあるわけです。

そして、もうひとつは、その現場でなかなか動こうと思ってもいろいろな規制の壁があった。例えば、どこかの広場を使って何かやろうと思っても、ここはデッキですから

道路扱いでだめですよとか、それから保健所が、警察がという話になっていくわけですよ。そういったバリアをどんどん外していくための仕組みづくりをやっぱり我々が主体的にやっていかないと、多分そういった力をぐっと引き出せないよねという、そういう議論をやってきたわけなんです。だから、そのところでやっぱり実際スムーズに計画が動いていくような、ひとつの運動とか力に変えていくためには、その部分をもっと今度の新しい基本構想では重点化していく必要があるという議論があったということなんです。一応、議論のご紹介ということでお話しさせていただきました。

大村虔一会長

どうもありがとうございました。

どうぞ。

内田幸雄委員

基本的なところは異論もないし、総論では大賛成なんですけれども、資料3～5の参考資料1のカラー刷りの資料とか、こういったものも拝見しながら、ある種、完成物を想像してきているんです。そのときに四つの基本構想の具体像の中を、資料5を拝見していても、新しい価値観とか新しいという言葉が非常にあって、それはよその総合計画でもたくさん取り入れられている。それはそのとおりなんですけれども、残すべき伝統とか歴史的なものというのが、では、でき上がった総合計画の中にどのぐらい、どういうふうに入ってくるんだろうかとちょっと想像しました。

この資料5の資料を見ても、読み切れていない部分もありますけれども、の2つ目の項目のところに、「仙台の歴史や伝統を大切にしながら」というのが一言入っているだけでして、残すべき伝統や歴史って何なのかとか、それに対して新しい価値観という言葉がひとり歩きすると、何かすごくいい言葉に聞こえるんですけれども、暴走することもあるかもしれないというところで、この仙台らしさというところでの完成物の中での配分量というんですか、そういったところも何か、やっぱり残すべきところは残すことを明確にしながら、そことの新しい価値観との融合というか、そういったところがうまく取り入れられたら、仙台らしさが見えてくるんじゃないかと思うところです。

大村虔一会長

どうもありがとうございました。

いろいろな意見が出てきましたが、まだまだおありと思いますが、いかがでございますか。

どうぞ。

宮原育子副会長

先ほど岡本さんから、ほかの都市の基本構想もいろいろ拝見されたということをお聞きました。私も今回、別の地域、横浜とか政令指定都市の基本構想をちょっと見てみ

たんですけど、やはり印象がちょっと同じような形になっていました。それで、先ほど大滝委員長から今度は市民目線でこの基本構想をつくり上げていきたいということがありまして、私も大賛成なんですけれども、その中で資料4の最初の基本構想の構成について四つでいきましょうという、これはもう大賛成ではあるんですが、この言葉なんです。策定の趣旨とか都市像とか、これをこのままパンフレットにすると、ほとんど行政用語といいますか、どこが市民目線なのとなると思うので、考え方として、やはりこういったところから市民の方たちがわかるような形での表現が必要なのだと思います。

例えば、策定の趣旨であれば、これからの10年を考えるための社会背景とか、それから都市像であれば、仙台市民が目指す暮らしのイメージであるとか、多分その施策の基本方向であれば、その目標に向けた仙台市の支援の方向性とか、それから4番であれば、行動する市民を実現するためにとか、その必要なこととか、多分そういう形の言葉を使いながら展開していったほうが、もっと生きたものになってくるんじゃないかと思うんです。

ちょっとおもしろいと思ったのは、実は京都市の基本構想がございまして、すごくおもしろいのは3章構成になっている、前書き入れて四つですけども、第1章では京都市民の生き方と書いてありまして、ひとつは歴史の文明の大きな転換期の中で、それから京都市民の姿勢、京都市民の得意とするところとか、これからの京都市民の生き方、第2章が市民の暮らしとまちづくり、ちょっと中は言いませんが、第3章がいわゆる市民の行動力です、市民がつくる京都のまちという3つなんですよね。実はこの書きぶりも、「私たち京都市民は」という言葉で書いていらっしゃるんです。主語が私たち京都市民という、先ほど市民ということが漠然としていたり、ではだれがというところがなかなか入りにくいとおっしゃっていたんですけども、この構想は仙台市の基本構想であるわけですから、やはり仙台市民というような形で、言葉をしっかり使ったほうがいいんじゃないか。市民力とか行動力のその最たるものは、私たちがだれなのかということをしかりこの基本構想の中にまずは盛り込んでいくことと、それからさっきおっしゃっていた市民目線の中でこの表現をどう考えていくかということに、より具体的な方向性だとか、市民が共感するような言葉が盛り込まれるのではないかと思います。

以上です。

大村虔一会長

ありがとうございました。

ほかにいかがでしょうか。

どうぞ。

針生英一委員

ざっと見せていただいて、私はやっぱりまちづくりというのは人づくりがベースにあるんだろうとずっと思っていて、そういった意味で見ると、子供の教育という部分に関しての記述はあるんですが、市民力を支えるための市民活動の人材だとか、あるいは税収を支えるための産業、それを支える人材の育成だとか、そういった部分の記述が

やはり中に欲しいと感じております。産業人材育成に関しましては、もちろんアントレプレナーみたいな考え方もあるんですけども、もっと幅広く、やはり地域の産業を支える人材を応援していくというものが必要かと思っています。

それから、もうひとつは、何人かの方からか似たようなお話はあったんですけども、市民の目線から見ていたときに、行政のあり方という記述をこの中にどう入れるのか。市民協働は当然うたわれているんですけども、ただそのときにやっぱり現状で見ると丸投げ型の協働とか、協働とは言えないような形がまだまだ多いと、協働の本当の部分も仙台市の職員がどのくらい理解して行動しているのかということのもやはり見えないという中で、その市民に丸投げ型の形だけの協働みたいなものではないということ、やはりどのようにこの中に盛り込んでいくのかということも必要かと感じました。

大村虔一会長

ありがとうございます。

いかがでしょうか。ございませんか。

先ほど、菊地委員が言われた人口の問題ですけれども、私は仙台市の人口がどうなるかだけの話ではなくて、20世紀と21世紀の日本国全体の人口が、20世紀は上り坂で、いつも右肩上がり人口が増えてきた。ところが2000年前後で大体峠に来て、そして今度は逆に下り坂にずっと入る時代、非常に大きなターニングポイントにいて、今、我々計画をつくらざるを得ない。20世紀に計画をつくるときには、人が増える中で、活力をどうやってまちづくりに反映していくかという考え方で計画したけれども、そうではなくなってきた。人が少なくなるというのは、経済力でも少しずつ違った形になっていく。

これは、悲慘な状況かという、20世紀のヨーロッパは大体そういう感じで、その中で元気がなくなりながらも、それをいろいろな形で維持してきた。自分たちなりの生活の仕方をしっかりつくっていけば、まだまだいろいろなことができるという枠組みの中で、仙台市のよさをどう発揮していくかというのがテーマなんだろうと思うんです。

特に、仙台で気になっているのは、東北が日本の中でも圧倒的に人口減少する地域だということです。ざっと試算するとこの21世紀の中葉ぐらいに南東北の3県の人口の、下手すると3分の1ぐらいを仙台市が占めてしまうかもしれない。ほかはものすごい勢いで減って、仙台市はそれほど減らない。減らないところには、あそこに行かないと暮らせないと思う人が集まってくることがあると、今考えているフレームよりも大きな人口になってしまう。そうすると人口の落ち込んだ周りの東北地域の中で、仙台がどう周辺も支えるのかといった今まで余り考えなくてもよかったテーマが出てくるおそれがある。そういう社会状況も考えつつ、仙台はどうしなきゃいけないかを、その市民力という言葉の中でどう考えるかということになる。

昔、道普請などを市民力でやっていた時代もある。だけどだんだん経済がよくなって、そんなことを市民にやらせなくたって行政のお金でできる状況になったんだけど、だんだんそれが怪しくなりかけている。市民力というのはある意味では格好いい話なんだけど、ある意味では、やむにやまれずというところもあるかもしれない。ただそれで悲観はしてはおりませんけど、やっぱりそれでもよりよい楽しい幸せをどうやってつくる

かを探していかないといけないと思っております。

先ほどの人口問題で余り人口を減らす話はしたくないのは私も同じですが、日本全体の状況がそうなっているときに、これをどうとらえて次の時代を語ったらいいかという大きなテーマがあって、恐らく京都はそういうことをとらえているんですけど、向こうには神戸があったり大阪があったりする中の京都なんですよ。そのところ少し違うんですよ。東北一円の中でもやっぱり圧倒的なんです、仙台が。

少し蛇足でございましたけれど、そんな中で、先ほどの起草委員会が書いてくださった資料を一生懸命読んでいるわけです。

どうぞ。

小野田泰明委員

起草委員会の当事者でしたので、余り質問は避けようかと思っていたのですが、今、大村先生おっしゃったように、問題が非常に大きいので、もしかしたらそれを全部、総合計画の中でとらえようとしても恐らく無理で、ただ、総合計画というのは市役所が動くときの憲法みたいなものですから、市のスタッフが動くときにこういうふうにやってくれば全然今までと違うという、何か切り口が明確であれば僕はいいと思いました。

それで、基本構想の構成としては、現状なりビジョンを明確に示すと、それで四つの軸、「世界に生きる東北の力」、「未来を築く学びの都」、「健やかな暮らし」などというものがあるんですけども、もうひとつの縦の軸でそれをどうドライブさせるかということについても、実は議論はしています。これはなかなか表面に出てこないというか、文章にするとすごくわかりにくいのですが、この資料3～5の参考資料1の起草委員会における委員会提出資料の、きれいな木のイメージ図のひとつ前です。これなんですけれども、これは起草委員会のときの議論を、大滝委員長を始め皆さん議論しているのを書記的に僕がまとめた図ですけれども、このローマ数字のⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳというのが別な縦の軸です。

これは何言っているかと言うと、要するに「世界に生きる東北の力」とか「未来を築く学都」とか「健やかな暮らし」とか「自然共生サステナブルな社会」という基本構想に書かれる四つの都市像をどうやってドライブさせるかという、横に切るのではなくて縦に切ると、実はこのローマ数字の四つが出てくるのではないかと考えました。真ん中にあるのが行動する市民力で、その行動する市民力をきちんと吸い上げるための仙台型の新しい公共モデルをきっちりつくらないと、恐らくこれはできません。

これは、先ほどから市民の力をどうやって吸い上げたのかという議論になっていますけれども、パブリックインボルブメントの仕組みをきちんとつくって、そこに新しい仙台としてのアイデンティティーをつくっていけばいいというのが最初の攻めるべき地点です。攻めるときに何を問題にすればいいか、今まで市民参画をするとどうしても取引コストが大きくなるし、最大公約数的な非常に平準化された、余り専門的ではないもの、参加するということは大事だけど、参加した結果みんなに配慮したから非常に平板でつまらないものになってしまう。コストをかけた割にはつまらないものになってしまうので、なかなかそこに踏み切れなかったのですが、この仕組みをきちんと変えていけば、

専門家がきちんと参画して、選ばれた人が闊達に議論して、それが透明性の中で担保されていれば別に全員の意見を聞く必要はないし、もう少し突っ込んだものができます。それはパブリックインボルメントガイドラインとアメリカでよく言われていますけど、そういうものをきちんここでつくっていきます、位置づけていきますということを、この総合計画という憲法がばねになって次の仙台市の施策に反映していけば、それが市民参加といえれば縦割りは関係ありませんから、横串で物事をつないでいって、そういったパイロットプロジェクトが連なっていくと仙台は非常に個性的なまちになって、人口が減った中でも国際的な都市関係をその中で考えていけるのではないかと思います。

総合計画でできることは、経済状況を変えるとか新しい産業を興すということよりは、むしろそういうインフラのきっかけをきちんにつくっていくことなのかと議論に参加させていただいて思いました。

ただ、今、申し上げた縦軸の話は、総合計画はやっぱりどうしても横に切らなければいけないので、なかなかそこに乗っからないのです。したがって、もうちょっとこれをわかりやすくきっちり伝えていくと、少しは我々が議論したことが市民の皆さんや委員の皆さんに共有していただけるのかと、今、皆さんの議論を聞きながら思いました。

以上です。

大村虔一会長

ありがとうございました。

こういったダイアグラムで物事を整理するということは、物事を理解するのにとても重要だと思いますので、まだ何となく何かありそうだけど、しっくりきていない部分もあるような気もするんだけど、みんなで少しディベロップさせていただけるといいですよ。

どうぞ。

岡本あき子委員

今までの議論を聞いていて、ちょっとこういう発想はできないものかと思ったのが、どうしても総合計画なので、ある意味縦割りというか、さっき横とおっしゃいましたけど、それぞれの施策が中心になるというのはやむを得ないというお話があったんですが、逆にそれを切り崩して、例えば大滝先生の資料の中に私たちが守りたい価値、育てたい価値、伝えたい価値という表現がございましたよね。その中で例えば守りたいものというのは仙台市では何なんだろう、それこそ町内会の加入率が高いというのもそうだろうし、市民活動が盛んだというのもそうだろうし、あるいは杜の都というブランドを持っているということもそうだろうし、いろいろな縦割りの局をまたがって守りたい価値というのはこういうものがある、それは自分の生活の中ではここは緑を大切にしなければ、市民活動をやらなければいけないという価値になるのか。育てたいものというと、まだまだ人を育てていかなきゃいけない、産業も育てていかなきゃいけない。そうすると教育局とか経済局とか、そういう縦割りを超えて表すことができるのではないのかと、ちょっとまだ整理がついていないんですが、あるいは新たに作りた価値は何なんだ、

それが例えばシティセールスだったり、世界に向けて仙台という位置づけを求めていくんだとか、そういう、それこそ縦割り行政でさっきも垣根とか、いろいろな実は規制があってというお話があったときに、それを超えて、仙台としてこれは今後も大事にして、これは更に力をつけて、これは新たに挑戦をしていくというくくりで表現することができないだろうかと思いました。

ちょっと思いつきで申しわけないんですけど、安心・安全とか環境とか経済とかという、どうしてもそうすると、何となく行政当局も安心・安全だったら福祉だとか、災害、消防だとか、イコール縦割りに何となく行政の仕事が、自分の範疇だな、いや、これはうちは関係ないと切られちゃうところを、あえて全部の局が自分たちの中で守りたいものは何だろう、そのためには教育とつながらなきゃいけない、あるいは都市整備局とつながらなきゃいけないとか、そういう発想に入っていけるような整理の仕方もありえるのかなと思ったもので発言させていただきました。

大村虔一会長

ありがとうございました。

小野田泰明委員

ただ、行政というのは、やっぱり法律に位置づけられて、それぞれの施策をやる責任を持っていますので、縦割りは悪いと言いますが、でも縦割りはきっちりやってもらわないと困るわけです。きちんとやりながら、一方ではその境界線上に問題も発生しているから、両方やってもらわないといけないんです。それをどう書くかというのは結構大変で、縦割りではなくて横だという話ではなくて、縦も横もなんで、そうすると、行政側がすごく大変なことになりますが、縦も横もどうやって共存させるかという仕組みづくりがまだ十分ではないんです。縦じゃなくて横だというのではなくて、それを共存させるための仕組みを、どうやって役所というローカルガバメントが持ち得るかということだと思います。

総合計画がそこをつくるためのきっかけに多分なればよくて、どこをポイントにしたらいいかというと、やっぱり市民参画がポイントではないかと思います。市民に参画してもらい意見を言ってもらい、プロジェクトベースで動いてその担当部局が市民参画をきっちりやる。そうすると必然的に横軸が出てきますから、そういうプロジェクトの層が重なっていくことで、最終的には10年後にだれも見ただけでもないような、すてきな市民参画社会ができるといいと思います。

多分、ひとつひとつのプロジェクトを大事にしていく、そのときに市民参画を必ずやります。ただ、市民参画をやるときに、みんな言いたいことを言って終わりというのではなくて、こういうルールに従って今までにないジャンプをしましょう。そのときに、今、岡本先生がおっしゃったように守らなければいけないものは何かとか、本当に新しく付け加えていかなければならないものは何かとかという議論に恐らくなっていくと思うんですけども、そのコンテンツを議論するというよりも、むしろ仕組みをここで内包させたほうがいいのではないかと考えています。

大村虔一会長

ほかにございましょうか。

大体12時まであと40分ぐらいになりましたが、今までの話はどちらかというとい具体的検討に向けた方針にかかわる幾つかの主題、皆さんのお気づきになった点について大体出てきているような気がします。これはどこまでやるのがいいのかわからないけど、都市像のたたき台が一応提言されていて、これについては余り直接的なご発言はなかったような感じがしますが、その辺にももし何かお気づきのことありましたらご意見をいただきたいと思います。必ずしも都市像のたたき台についてでなくても結構でございます。いかがでございましょうか。

どうぞ。

鈴木由美委員

先ほど言われた方もいらしたんですけれども、やはり「行動する市民力」と記載するときに、実際に行動するときの力というのは、行政から、要するに市民におろしたときの市民が発する行動の力なのか、それとも市民自体が考えて行動する力なのかという意味合いが感じとれる文章がここの中には記載されていないんです。「行動する市民力」と今回から新しく基本構想に表現していきますというお話が、先ほど大滝先生からあったんですけれども、それが実は行政側からこうしてくださいとか、こうしようという何か提案のもとに、それに従って「行動する市民の力」と私にはこの文章から受け取れて、市民自体が自分たちで考えて行動するという部分の記載が若干薄いという気がしたのと、そういうことを新たに市民の力をぐっと表に出して、これから仙台市を新しくつくり変えていくんですという部分を新しく重点にしたんだという記載の仕方を、もう少し何か市民が自発的に取り組めるような、自分自身が視点に立ったときの文章の表し方、ここにひとつひとつ項目は書いてあるんですけど、例えば「人間の尊厳を大切に」という表現になって、最後に「ともに生きることができる」、「できる」ではなくて私たちが「つくっていく」という、新たな自分の目線の表現という部分が、先ほど宮原先生からもお話がありましたけれども、その部分が何か全体として薄いというか欠けているというか、何かこれを読んでも、ああ、他人事ねという、私自身の感想としてはすごく遠いところにあって、こうしてくださいね、みんな一生懸命自分たちでやるんですよと言われている印象の文章で、実際自分たちが、これから将来にとって自分たちが自分たちの力で活躍して、新しい仙台像をつくり上げていくんだという表現がもう少し欲しいというのが私の感想です。

大村虔一会長

ありがとうございます。

いかがでございましょうか。

先ほどの宮原さんの発言なんかに通じるものがありますよね。

どうぞ。

樋口稔夫委員

市民の範囲が行政も入り込んでいるというところに、ちょっと皆さんがそういう理解をするかどうかという、今までの進み方からするとちょっとぴりっと来ないといえますか。さっき言った市民力というのが、何かそこまで含むと、企業市民とよく言うからこの辺ぐらいまではわかるんですが、行政が市民という立場で入り込んでいいのかという、ちょっと感じがしたんですけれど。この辺は起草委員会の中では、議論の中でどうだったんでしょうか。

大村虔一会長

起草委員会の中でその議論はどんなでしょうかというご質問ですが、どなたかいかがですか。

大滝精一委員

そうですね、ここは、今までは行政と市民との間の協働という言い方をされていたので、その中では市民と行政というのは一応別のものとして考えてきているということはあるんです。今回の場合だと市民というのをかなり広くとって、行政の職員自身も市民であるという、そういう立場で少し市民という定義を広くしているんですけれども、それは多分これからどう書き分けていくのかということがあると思いますけど、いろいろ特筆があると私も思っています。これは私個人の意見ですけど。

ですからやっぱり行政の職員としてやらなければいけないという話と、その職員としての個人が市民であるということとは同一ではないので、そういうところをどう区別していったらいいとか、どういうふうにそこを考えていったらいいかということについては、ここに書いてありますように、もう少し議論をしっかりとやらないといけない部分であると思います。

それから、先ほど来いろいろあるように、市民といっても非常に幅広いものを全部市民と呼んでいるわけですが、多分、基本構想の中で、どこまでどういう形で書き込めるかどうかはちょっとまた別の問題なんですけれども、すべてのものを市民という言葉でくくってしまうことによって、かえってわかりにくくなっているということも、先ほど来指摘があるとおりだと思うんです。ですから、もう少し市民といっても、ではだれがどういう役割を持って、どんなプレーヤーとしてこういうことの中に入っていくのかということについては、もう少し多分きめ細かな書き方とか書き分け、あるいは、あえてそれを全部、全体をオーバーオールで市民と言ったときには、そこに何を期待して我々はそれを書いているかということについてのスタンスをもうちょっとはっきりしないと、いろいろな誤解がそこから生まれてくるという感じは持っています。検討させてください、そのことについて。

大村虔一会長

どうぞ。

増田聡委員

先ほど、小野田先生からもありましたが、この基本構想、基本計画を具体的にどういうものとして考えるのかというのがそもそもあって、地方自治法に求められているところの構想をつくって、その条文上、策定の趣旨とか都市像とか、そういう言葉が使われているのでそれを踏襲した、いわゆる行政計画として考えるというのがひとつのスタンスで、それを越えないというのも当然あり得るんで。ただ、もう一方で京都がどうつくったのかはちょっとよくわかりませんが、多くのもう少し規模の小さい自治体でいえば、何とかデザイン市民会議とか地区別懇談会とかを基礎に置いて、一応そこから上がってきたものの積み上げで市民総意のもとでつくっているという、そういう基本構想、基本計画というつくり方もあるわけですが、残念ながら100万の仙台ではなかなかそういう積み上げ方のプランニングは、今のところは余りできていないので、どこまで踏み出すのかというのは、やはりこの委員会が、ここら辺のものとして今回は基本構想や基本計画を位置づけるのだと。

小野田先生的に言えば、かなりリストラクティブに役割を絞って、行政が市民に向かって発するところに重点を置くということですし、一方、もう少し私たち仙台市民はという主語を使いたいということであれば、その基本構想が終わった後に、この基本構想をどう読むのかとか、それに従ってこの後何をするのかというのを積極的に働きかけるという場をつくらない限りは、行政が市民の名前をかたって「市民は」と書いたことになってしまうので、やはりそれはこれが終わった後の展開までどこまでその視野に入れるかということではないかと個人的には思います。

ですが、基本的な今までの流れでいうと、やはり前回のフレームをほぼ踏襲しつつ、やや行政と市民がパートナーシップを組むということからもう一步、市民にこういうことを働きかけたいということまで枠を広げていくという第一歩みたいな総合計画かと今回は感じているんです。

大村虔一会長

ありがとうございます。
どうぞ。

柳井雅也委員

私、多賀城市の総合計画の委員もやっているんです。確かに市民参加でずっとワークショップを積み上げながら総合計画をつくっていくという手法なんですけど、仙台では難しいですね。だからやっぱりそのガイドラインをきちんとつくって、それで、そのきちんとした市民との対話のひとつのインターフェースをきちんと認知し合うという手続をまずどうするかということを考える必要があると思いますね。

あともうひとつは、基本構想というのは、最終的には行政がいろいろな施策を打ち込んでいく場合、あるいは市民にとって有意な施策となるような、そういうひとつの考え方の筋道をきちんとするという事なんですから、確かに対外的に異質であるか個性的

であるかということの主張もあるんですけども、むしろ使い勝手のいい基本構想をちゃんとつくっていくという作業が、本当は僕たちにとっての最終ゴールになってくと思うんです。

その場合、ひとつのやり方になるんでしょうけれども、定量的なものと定性的なものをきちっと分けて、定量的なものについては数値目標をきちっと市民に示していくと。一気にこれを25年後にこうしますというのは難しいので、例えば5年単位でそれを見直していくとか、そういった形でいつもその計画の見直しをきちっと仕込んで、それで定量的なものについては数値目標で示していくという作業を、どこかにこれをうたっておくといいのかと思いますね。

もうひとつは、横串って起草委員会でよく話していたんですけど、横串の議論と施策を打ち込んでいくということが、ある場面では非常に仕事を増やしていくという作業になると思うんですが、ある場면을越えていくと、今度はむしろ行政の効率化につながっていくと思うんです。必ず組織の改編とかそういったものにつながっていきますので、あと予算の使い方の効率性ということにつながっていきますので、そこを恐れないで是非チャレンジしていく必要があると思います。

だから、そういうふうを考えていくと、人口減の問題も、表向きそういう言葉は出てこなくても、私たち自身は抜本的なというか、根本的なチャレンジを仙台市のこの総合計画の中でやっていくんだという意味表明にもなっていくと思うんです。そういう意味でも手続をきちっとしておく必要があるんだと思います。

大村虔一会長

ありがとうございます。

ほかにございますか。大体出尽くしたでしょうか。

現在の基本構想でもパートナーシップを組んでやるんだと言っているわけだけれど、具体的にどうできるかがなかなか難しい。当然、NPO活動などである問題意識を持って、社会活動を始めてみると、お役所のどの部門と話し合いをしたらいいのかがなかなか難しく、なかなかうまくいかないところがある。それから、僕は都市デザインの仕事をしていますが、まちづくりの仕事をやると、あるいは、お役所の内部で、ひとつのプロジェクトを進めようとする、幾つかの部局が協力して取り組まないとうまくいかないことが多いわけですが、そのところがなかなか難しいんですよね。それぞれ部局ごとのルールがあって、ほかとうまくやって、全体をよくしていくのが難しい。多分その状況をどう変えていくのかが、今回の市民の力でという話を据えたときに、具体的に議論しなければいけないテーマなんだろうかと考えております。

先ほどから申し上げておりますように、この具体的検討に向けた方針案についての意見はいろいろな形で出てきていて、かなり幅があって、まとまてはいないけれども、恐らく起草委員会で議論をするときの、ひとつのネタは随分出てきているのではないかと思います。もうひとつ、最後の資料5で言われた四つの柱をベースにした話について、若干のご発言はありましたけれど、余り発言がなかったのですが、この辺について少し何かございましたらいただいておりますが、いかがでしょうか。

どうぞ。

石川建治委員

基本的にこういった流れで基本構想の都市像のイメージというのはよろしいかと思えます。ただ、これはあくまでも枠というよりも芯になるものですかね。そこに肉がついていって、完全にでき上がっていくということになるんだろうと思うので、その中で今後議論してもいいのかと思っていましたが、例えば2番目の地球環境の問題ですよね。これまでは確かに環境保護ということに非常に軸足が置かれてきたんですけども、最近は低炭素社会というその実現に、どう人間が取り組んでいくのかといったことが強調されていますので、そういう意味で、仙台市としてのグリーン・ニューディールというんですかね、最近はやりの言葉になっていますけれども、そういった視点というのもしっかりきちんと議論できるような、そういうところを残していってもらえればと思っています。

それから、例えば4番目の学ぶということです。学都と言ったときに、単に大学や専門学校が多いから、若者たちが多くから学都ということではなくて、実はその市民一人一人が自分の学びたいものを学ぶというか、自分が成長したい者を助けられるようなまちということもまた、その学都の中にあるのかと、含まれるのかと思うものですから、そういったことも含まれた中でのこの4番目のテーマといたしますか、そんな都市像なのかとは思ってはありました。

大村虔一会長

ありがとうございます。

ほかにいかがでございましょうか。

基本構想の中での策定の趣旨があって、その次に都市像というのがあって、それが展開していく格好になりますので、今、おっしゃったように最初の核になるものだと思います。

前にも言いましたが、2番目の環境のところ、いわゆる今まではどちらかというと広瀬川とか杜の都とかを中心にした環境を語ってきた。けれども、仙台の都市はそれを取り巻く田園地帯もございします。そこも環境の一部として人間を支えてくれているという視点も、入ったほうがいいと感じます。海岸の方面に行くと、まだ随分田んぼもありますし畑もあります。高い樹木だけではなくて、その辺も視野に入れていただきたいと思います。

ほかに何かございますか。

どうぞ。

樋口稔夫委員

仙台は結構人は来るんですけども、観光都市という感じが少ないといえますか、バスで来られた方が仙台駅前に泊まって、あとちょっと動くぐらいで、仙台市内、あと大体青葉城を回ってとか決まったコースを走っていますけれども、お土産買うにも

どこで買ったらいいいんだろうとか、大きい都市になると大体相当の集積した基地をつくって、そこで大体お土産を買ってもらってお金を落としてもらおうと、そういうことをやっていますけれども、仙台の場合そういう場所が少ないといえますか、ないと言ったほうがいいんですかね。何かそういう場所が必要ではないでしょうか。そういうものも大きな経済価値が出てくると思うんですけれども。その辺も何か都市像の中に入れるかどうかかわかりませんが、そういうのも入れたほうが。

大村虔一会長

ありがとうございます。

まだご発言いただいていない方が何人かおられますので、お願いしてよろしいでしょうか。こちらの列から参りますと、阿部初子委員はいかがでございますか。

阿部初子委員

市民の力、行動する市民ということで、先ほど仙台市に暮らす人というところ言えば、エリアというか、もっと、前にも話したと思うんですけど、まちの中心ではなくて全体的なところのどこでも、山里のほうでも海側の人でも本当に感じられる生活というか、もっと一人一人が参加できるものにするためにはどうすればいいのかと、先ほどからいろいろ考えていたんですけど。そしてその観光の部分でも、本当に観光地だけではなくてそういった暮らし、山里の暮らしであったりとか海の暮らしだったりとか、まちなかの小さな商店街であったりとか、そういったものが本当に仙台の観光なんだと言える、そういったところで仙台で暮らしている市民一人一人が動けるといって、そういった力になるようなものってどうなんだろうと、言葉的にはうまく表現できないけど、そんなことをずっと、今、考えていたんですよ。

どうも何か都市のところだけに行きがちなんだけど、全体的なエリアというところを考えることによって、より自然を含めて東北の拠点と言うんだけど、それがまた海や山、里ともつながる線というのがきっとあるんだろうと思うんですけど、うまく表現できません。

大村虔一会長

ありがとうございます。大切な視点だと思いますので、検討していただくことにいたします。

次に、江成委員、いかがでございますか。

江成敬次郎委員

私も起草委員のメンバーでしたので、今日はいろいろご意見を聞かせていただいて起草委員会の議論の中に反映させたいという、そういったことでちょっと聞かせていただきました。

一番やっぱり印象的だったのは、宮原先生がご紹介されたり、あるいは鈴木委員がふられたことだったんですが、私なりに理解をして、例えばその都市像のたたき台でひ

とつの言葉です、人間の尊厳を大切に云々、生きることができるという言葉、表現を、例えば「私たち仙台市民は人間の尊厳を大切に、ともに生きていきます」という文章にするやり方もあるのかということでお聞きしたんですけれども、それがいわゆる法的な問題の基本構想の位置づけとどうかかわるのかということも考えなければいけないというご指摘もありましたので、なかなか難しいという思いで今はあります。その辺の判断材料なども行政からいただきながら、起草委員会で議論をしたいと思っております。

それと、もうひとつ、最後のほうでご指摘のあった環境にかかわることでの都市像の中への書き込みなんです、私はこの都市像の中にどこまで細かい具体的なことを書き込んだらいいのかということについて、余り細かいところまで書き込む必要もないのか、具体的な施策のところ、少しいろいろなことを具体的に書き込んだらいいのかという、そんな視点で今回のこのたたき台については、特に2番の環境の問題についてはこの程度かということ考えておりましたけれども、今、ご指摘いただきましたので、また少し考えてみたいと思っております。

以上です。

大村虔一会長

どうもありがとうございます。よろしくお願ひしたいと思います。

それから、小松委員はまだご発言ないのではございませんでしょうか。

小松洋吉委員

私も起草委員の一人として勉強させていただき、今日のことを踏まえてまた議論してみたいと思います。

感想として、委員皆さんからご発言いろいろいただきました。起草委員会の中でかなり議論になっていたところが多かったと思います。またこれは、大滝先生が市役所の行動指針でありつつ市民の目線に立とうということで、私からすると2つも3つも前に突っ込んだ発言あるいは表現があったのではないかと思います。今日いただいたものをより成熟させることができるように努力していきたいと思っております。大変ありがとうございました。

大村虔一会長

どうもありがとうございます。

佐竹委員、いかがでございましょうか。

佐竹久美子委員

すみません、まず1点、是非とも考えていただきたいのは「行動する市民力」、先ほどご意見出ましたが、これに関しては私も同じような感情を持ちますので、この「行動する市民力」というのはもう一度考え直していただきたいと思っています。

それから、先ほどから議論になっていましたこの総合計画自体に関してなんですが、

行政が市民に向かって発していく、そのもとをつくると申しますか、そういうものであるという考え方と、あと幾人かの方から出てきました、市民が自らこれを読むことによって、自ら元気を出して活動していくと、そういう市民に向かって発するものか、これをどっちにウエイトを置くべきなのかというあたりが、ちょっと私自身もわからないまま皆さんのご意見を聞いていましたが、それをどっちかに、先ほども出ました100万の人口の仙台市の基本構想の場合には、ワークショップ的な市民のみんなの意見から持っていくって積み上げていくのはちょっと無理があるとか、そういうお話は出ましたけれども、あとほかのところの総合計画と似通った感じになりつつあるのかとか、そういうお話も出ました。そういうのから持っていく場合に、果たして100万の仙台市であるから積み上げが難しいとか、市民のそういうのではちょっとやっていけないと余りならないで、できれば宮原先生がおっしゃった京都の市民はこうだと、そういうものもきちっと入ったほうが市民の皆さんも関心を持ってくれるのではないかと、自ら自分の力を出していこうと思ってくれるのではないかと、こういう感想を持っておりました。

以上です。

大村虔一会長

ありがとうございました。

間庭委員、いかがでございましょうか。

間庭洋委員

私も起草委員でしたので、今日皆さんのご意見、もっともだと思いながら伺って大変勉強になりました。

例えば、資料5のたたき台のところで、一例ですけれども地球環境云々というところについてこういう表現になっていますが、議論としてはこのとおりなんです、含まれていることとして、私たまたま環境審議会のほうも、今、並行して参加させていただいていますので、この中に含まれているものとしては、今、あるものを大事にしていこう、守るというものとそれから継承していくもの、さらに質を高めていくという意味での環境というとらえ方があるわけですが、それは同時に産業の仕組ですとか、私たちの暮らし方というものと密接な関係がありますので、先ほど横串論とかいろいろありましたが、この 、 、 のすべてにわたって、そのテーマのもとで相互関連していると、企業だとか市民だとか行政だとかNPOとか、そういうプレーヤーがお互いにそういう役割を果たしながら、この四つのテーマを実現するためにという趣旨で都市像が描かれているという議論もあったということを思いながら、役割上そういった意味で、例えば環境の問題については、交通や土地利用など都市構造の問題ですとか、それからさっき産業と言いましたが、具体的に言えば低炭素社会を推進するための産業技術の問題ですとか雇用ですとか、いろいろなものが全部ここにも関係しているということも、起草委員会でも議論がありましたので、かなり幅広い、あるいは奥深いものが凝縮されて表現されているとは思いますので、今日皆様からいただいた議論もまた集約、肉づけしていければと思います、伺っておりました。

以上です。

大村虔一会長

ありがとうございます。

西大立目さん、最初にはちょっとご発言いただきましたが、ほかにございますか。

西大立目祥子委員

私も起草委員なので、ちょっと今日は聞かせていただくことに徹していたんですけども、委員として起草にかかわりまして、人口減少というすごくリアルな時代の中で新たに出していく総合計画なので、私としては何かこう新しい一歩を踏み出すという、そういう強い印象を持つものに仕上げたいと思っているんです。

ただ、先ほど宮原先生が京都のお話をくださったんですけども、ああいう言葉遣いを使ってメッセージを送るというのはとてもすごく印象的ですね。あんなふうにしたいたいと思いながらも、これを仙台市という行政体が出していくということを考えると、私たちという言葉はどう市民は受け取るのか、あるいは市役所でお仕事なさる方が、そこにどのくらい自分を入り込ませてその言葉を受け取るのか、その辺もちょっとはかりながらではないと難しいかもしれないということも感じました。

だから、私たち仙台市民はこんなまちをつくりますと言ったときに、何か底が2つあるみたいな総合計画になってしまうかもしれないということもあって、さっきひとつご意見が出ていましたけれども、仙台市がこういう総合計画を出しますというその後で、何か市民のためのものが必要かもしれないと思います。今、多くの仙台市民は仙台市に総合計画があるなどとは知らずに生活していますから、総合計画があって、これが指針であって、憲法のようなものでもあると示す必要があるのかと思いました。

それから、都市像については起草委員会でも随分議論を重ねまして、結局この四つの柱でいくということになったんですけども、今日のお話を伺っていて、その四つの都市像には変わりはないんですけども、そこにどういう言葉を具体的に据えていくかということで、随分その目指すべき方向性や中身が違ったものになるのではないかなと思うんです。例えば前の総合計画でにぎわう都市、地球的交流の要となる新しい中枢都市としていたものを、今回は東北という言葉を具体的に使っていくわけですけども、全然そこに込める意味も、恐らくそれを受け取る仙台市民も東北の方も、違ったものとして多分受け取ると思うんです。そういう意味では共生とかほかの、今、四つありますけれども、その言葉についても、もうちょっと検討が必要なのかもしれないと思いました。漠然と自然との共生と言うのではなくて、そこに杜の都の伝統をある種込めたり、低炭素社会というこれからの課題を込めたり、何かもうちょっと方向性が見える都市像の言葉を使ってもいいのかもしれないというのは感じました。そんなところです。

大村虔一会長

ありがとうございます。

一通り意見を伺ったんですが、大滝先生に返さなきゃいけないと思います。基本的に

は新基本構想策定の方針については、今日いただいた資料４をベースに皆様から多様な意見が出まして、その位置づけとか、主語が市民かとか、いろいろな話が出ておりますが、その辺を踏まえてもう一回詰めていただくということになろうと思うんですが、大滝先生、いかがでございましょうか。

大滝精一委員

たくさんのご意見をいただきましてありがとうございます。

いただいたご意見に対してひとつひとつお答えするということは今日の趣旨では多分ないと思いますし、ご意見をお伺いして、私自身も賛同できる部分がすごくたくさんありました。

とはいえ、基本構想は多分長い文章を延々と連ねて書いていくというものではないと思うので、ある程度コンパクトでまとまりがある文章の中に押し込めるという作業が必要なんです。ここで１、２行で書いている部分についても、自分たちとしてはかなりいろいろな思いを込めて書いているという部分が実はたくさんあるんですけども、それはなかなかこういうふうに解釈してくださいというのは、また、副読本みたいなものをつけて解説しなければいけないみたいな変な話になってしまって。もちろん、それは我々の趣旨ではないんですけども。基本的には、今、いただきましたたくさんのご意見をできるだけきちんと反映できるような、なおかつ、ある程度の制約があると思いますので、コンパクトにまとめるという作業を引き続きしていきたいと思っています。

それから、先ほどから大問題になっていた「行動する市民力」という言葉の意味とか中身とか、それからそれをどう伝えていくのかというお話とか、それからこれは宮原先生を始めとして多くの方々からいただいた主語とか、私たち市民はという主語の表現にするとかについても、私は基本的にいい方向だと思っていますので、そういう方向で進めていきたいと思っているんですけども、一方で、先ほどからお話があるように、ここに踏み込んでいくとなると、これは我々の審議会もそうですし、それから市事務局を始め市の当局もそうだと思いますし、何よりも仙台市民の側にも相当の覚悟を期待するということがありますから、単に文章をいじるとか文章の記述の仕方を変えていくということ以上のことを、かなりたくさん踏み込んでいくことになると思うんです。そこまでの覚悟をどこまで私たちがみんなで決意して、コンセンサスを得てやっていくのかというのは、これは是非もう少し審議会の中でも議論をしていただきたいと思うんです。

書きぶりとか決意とか、その表現の仕方というのが大切だということは、まさにそのとおりだと思いますけれども、一たんそこに踏み込んでいくと、それなりのきちんとした対応をいろいろなところで求められることにはなると思うので、是非その点については、私たちが作業をこれから進めていく過程の中でもいろいろご意見いただければと思っています。

それから、今日ここでも議論を深めていくとか大変微妙な書き方をしているんですけども、先ほど会長からもお話があったように、かなりの部分で、仮に総合計画というものを行政の政策、施策の設計図、指針だと狭くとったとしても、その政策とか施策の決め方とか意思決定のプロセスを変えていくことを、私としてはかなり強くこの中に入

りたいんです。そういうことが必要だと思います。

最近の東西線の問題とかいろいろ見ている、なかなかそれが市民の思いとしてストレートに、では東西線のいろいろなまちづくりとか何かに反映しているかといえば、そうでないところがかなりたくさんあると思うんです。そういうところにある程度は踏み込んでいく必要があると思うんですけど、ここについても何かさっきと同じような問題が出てくるので、そういうことについても、いろいろ委員の皆様方から教えとかご意見いただきながら進めていく必要があるかと思っています。

以上です。

大村虔一会長

どうもありがとうございます。

今、大滝委員長から起草委員会の方向性をお話しいただきましたが、そういうことで今日の皆さんの意見を束ねて、起草委員会にもう一度おまとめいただくということでよろしゅうございますか。

(はいの声あり)

大村虔一会長

それでは、大変ご苦勞をかけることになりましたが、ひとつよろしくお願ひしたいと思います。それから都市像につきましては、今日はたたき台の提示ということで、若干の意見をいただきましたが、その辺も踏まえ、起草委員会でもまだ十分な検討ではないと先ほど委員長からご発言がありましたので、さらにご検討いただきたいと思います。最初のときに委員長の話では、主語を市民にするといったあたりのことをここで考えておられるということでございましたが、その辺もひとつ起草委員会でご検討いただきたいと思います。

大体時間が参りましたが、今日この場で発言したい方がおりましたらどうぞ挙手を願ひたいと思いますが、よろしゅうございますか。

どうぞ。

内田幸雄委員

全然違う視点なのかもしれないんですけど、言いたいことは、事務局なのかもしれませんが、メディアをもっとうまく使えないのかということを感じました。今日、結局記者席に記者がいらないんですよ。それで主語を市民にとか、こういう話をして。さっきも言われていましたけど、この審議会は結局市民からしたら全然別世界の話なんです。これで、ここで市民を市民と言ったり何だりしていたときに、ホームページに議事録が載るのも市政だよりに掲載するのも、基本的には行政からの発信だけであって、何かメディアが記事にしにくい話なのかどうか分かりませんが、市民感情をもっと巻き込むために、記事にしてもらえような案内の仕方みたいな形で、メディアの使い方がう

まくあると。審議会が市民の目線からみていく、そういう議論をしているんですから、そういったことを伝えてもらえるような活用はできないかと思いました。

大村虔一会長

ありがとうございました。

我々の仕事をもっと市民に伝えて、市民に関心を持ってもらおうと。それからもうひとつ、若い人たちからパブコメなどがなかなか出てこないという話がありましたので、その状況をどうするかなども、新年度から少し工夫しながら進めていくことになると思いますが、事務局の方よりしくお願い申し上げます。

それでは、ほかにご意見がなければ本日の審議会を終了したいと思います。よろしいですか。

最後に一言、どうぞ。

増田聡委員

後ろのほうに今後の日程表が載っていたんですけど、先ほど間庭さんのほうからもありましたが、環境審議会、都市計画審議会を含めて、この総合計画のすぐ下にぶら下がるもうひとつ部門別の大きな基本計画が、今、大きな改定時期を迎えて同時進行で進んでいることでもありますので、この予定表だと22年6月から基本計画の骨子案の審議がスタートするということです。是非それぞれの部局が一応縦割りで作っている最も上位の計画ですので、それについて幾つかその情報を出していただくというのと、できればさっきの市民向けの発想も含めて、それぞれの部局で考えていることを少し外に伝えていって、それでこの基本計画の骨子とどうつなげていくのかという議論をどこかで一度検討していただきたいというふうに思います。

大村虔一会長

なるほど。まだ決まってはいないけれども、それぞれ検討している内容を知らせていただきたい。

増田聡委員

同時進行で多分いろいろなところで。

大村虔一会長

内容についてお互いに交流しながらということです。難しい意見だと思いますが、ひとつ前向きでご検討いただくということにさせていただいて。

(3) その他

大村虔一会長

それから、最後にその他というのが実はございまして、これは審議会日程の件でしょうか。

折田総合計画課長

では審議会日程、今、話題にも上りましたが、資料6に基づきまして今後のざっくりとしたスケジュールをご説明させていただきます。

まず、当面一番かぎになりますのが、本日、大滝委員長からもお話がありましたが、5月下旬に再度この審議会を開催させていただく予定でございまして、そこで基本構想の中間案というものをまとめて、この中間案でもって議会はもとより市民の皆様、これから議論を喚起していく、先ほどメディアに注目されるようなものをとということもございましたが、この審議会の場をひとつのきっかけとして、より議論の輪を広げていくということを、この中間案を確定した以降にいろいろ展開していきたいと思っておりますので、その具体的な中身につきましては、追ってまたご相談をさせていただきたいと考えております。

それから、もう一点、起草委員会、これから4月下旬、1回でまとまらなければ、また大滝委員長と相談して回数を増やすことも検討させていただきますけれども、石川委員からご提案がございまして、皆様これまで第2回の審議会から第3回の審議会までの間、起草委員会の動きというのがなかなか見えづらい状態にあったということがあったと思います。これは事務的に、我々事務局から皆様に本来であれば議論の経過等をご報告すべきであったと、そこは真摯に反省をしておりますので、今後、起草委員会、いつ開催されるのか、あるいはその議論の経過がどうであるのか、議事録はホームページに載っておりますので、そのリンク先をメール等でお知らせをするなど、議論、進捗状況を随時お知らせをしながら、次の第4回審議会の議論をより濃密なものにするために頑張っていきたいと考えております。

それから、長期的なスケジュールでございますけれども、来年度、もう4月に来年度になりますが、来年度いっぱいこの総合計画全体、基本構想、基本計画、それから実施計画は事務的につくるものでございますが、その3点をすべて仕上げていくという必要がございまして、かなり委員の皆様にはご負担をおかけすることになると思いますけれども、ひとつご協力をお願いできればと思います。

事務局からは以上でございます。

大村虔一会長

この審議会日程につきましてご質問ありますか。よろしゅうございますか。

3 閉会

大村虔一会長

よろしければ、起草委員会の皆様のご苦勞、大変だと思いますけど、ひとつ何とぞよろしくお願い申し上げて、本日の審議会を終了したいと思います。

どうも本日はご協力ありがとうございました。